

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	深川市立深川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	3	3	2	18	26
児童数	75	91	73	93	92	86	4	514	

研究の概要

1. 研究主題

自らを磨き、逞しく生きる子の育成  
 ~一人一人に確かな力を育む算数科の授業を目指して~

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・4年生算数(一人一人の学習状況に対応するため、個に応じた指導の充実を図る)
- ・5年生算数(少人数学習を通して、基礎・基本の徹底を図る)
- ・6年生算数(少人数学習を通して、基礎・基本の徹底を図る)

(2) 年次計画

平成14年度  
 テーマ 一人一人に確かな力を育む授業をめざして  
 仮説 (1)個に応じたきめ細かな指導により、一人一人が自分の力を発揮しながら、問題を解決することができるようになる。  
 (2)自力解決の手立てを工夫することにより、自ら学ぶ力を身に付けることができるようになる。  
 研究の内容・方法  
 (1)個の能力、特性に応じた指導方法・指導形態の工夫改善  
 (2)評価を生かしたT・Tによる授業の在り方とT1、T2の役割の明確化

平成15年度  
 テーマ 一人一人に確かな力を育む算数科の授業を目指して  
 仮説 (1)少人数指導やチーム・ティーチングによる授業など、個に応じたきめ細かな指導や評価を工夫することにより、一人一人が自分の力を発揮しながら、問題を解決することができるだろう。  
 (2)算数的活動を促す教材・教具の開発や数量や図形に対する豊かな感覚を身に付ける場や機会を工夫することにより、自ら学ぶ力を付けることができるだろう。  
 (3)個別指導と集団解決の場面を組み合わせた指導過程を工夫することにより、共に認め合い、助け合い、高まり合おうとするだろう。  
 研究内容・方法  
 (1)個に応じた学習指導の改善  
 (2)学習内容を深化・補充するための教材の開発  
 (3)個の願いを生かした課題づくりや振り返り・評価の工夫

平成 16 年度	<p>テーマ 一人一人に確かな力を育む算数科の授業を目指して</p> <p>仮説 (1)少人数指導やチーム・ティーチングによる授業など、個に応じたきめ細かな指導や評価を工夫することにより、一人一人が自分の力を発揮しながら、問題を解決することができるだろう。</p> <p>(2)算数的活動を促す教材・教具の開発や数量や図形に対する豊かな感覚を身に付ける場や機会を工夫することにより、自ら学ぶ力を付けられるだろう。</p> <p>(3)個別指導と集団解決の場面を組み合わせた指導過程を工夫することにより、共に認め合い、助け合い、高まり合おうとするだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1)個に応じた学習指導の改善</p> <p>(2)学習内容を深化・補充するための教材の開発</p> <p>(3)個の願いを生かした課題づくりや振り返り・評価の工夫</p> <p>(4)研究のまとめ</p>
----------------	--

### (3) 研究推進体制

<p>平成14年度は、フロンティア事業推進担当（メンバー：教頭・フロンティア加配教員・指導法改善加配教員）が中心となつての研究推進であつた。</p> <p>平成15年度からは、研究部を中心とした学校全体の研究体制となつた。月2回程度の研修時間を確保し、学年部会や全体研修を行い、学級における実践を基にして、学年を中心に研修を進めてきた。</p>
--

### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導により、基礎・基本の定着が図られつつある。特に「数と計算」に関する領域では、少人数指導を取り入れた授業展開が有効である。</li> <li>・複数の教師が連携し評価観を交流することにより、児童を多面的にとらえられるようになった。</li> <li>・児童の発言や活動の場や機会が増し、一人一人が考えや思いを発表できるようになった。</li> <li>・個別の対応が可能となつたため、発展プリントの活用等で自主的な学習態度を高めることができた。</li> </ul>
---

#### 2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の特性をとらえ、習熟度別指導を位置付けるなど、指導の手立てを工夫し、個に応じた指導を進めることが必要である。</li> <li>・児童の意欲を高め、多様な考えを引き出すために、学習課題や活動を工夫する必要がある。</li> <li>・指導者同士で評定の仕方などについて共通理解を深める必要がある。</li> </ul>
---

## 学力等把握のための学校としての取組

- \* 学力検査の実施（毎年1回 4月に実施）
- \* 1学期末に、児童にチーム・ティーチングや少人数による授業についてのアンケートを実施した。
- \* 年度末に、児童および教員にチーム・ティーチングや少人数による授業についてのアンケートを実施する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

年度当初より、懇談会や各種通信等でフロンティアスクールの事業内容や研究内容について、保護者や地域に説明するとともに、参観日に地域の方や保護者に本事業の授業を公開している。また、今年度は11月26日に指導主事を招聘して管内規模の公開授業を実施し、研究協議を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |                            |                   |            |          |
|----------------------|----------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                 | 14年度からの継続校        |            |          |
| 【学校規模】               | 6学級以下<br>13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>19～24学級 |            |          |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>一部教科担任制           | T・Tによる指導<br>その他   |            |          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育             | 社会<br>音楽<br>その他   | 算数<br>図画工作 | 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |                            | 有                 | 無          |          |